

# シンポ会場



# プログラム

## プログラム

9:00 / 主催者挨拶等

9:30 / ① 温暖化で変わるオホーツク海:海洋物理化学観測の成果と今後の予測

北大海洋科学研究所:大島 慶一郎 教授・西岡 純 准教授  
総合地球環境学研究所:白石 孝行 准教授  
極東海洋気象研究所: 所長 Dr.カラセフ(Karasev) E.

(10分休憩)

10:50 / ② オホーツク海の生態系変動と魚類(スケトウダラ・サケ類)の動態

北大水産科学研究所:桜井 泰康 教授・岸山 雅秀 教授  
サハリン漁業海洋研究所:Dr.ヴェリカノフ (Velikanov) A,  
Dr.キム・セン・トク (Kim Sen Tok)  
Dr.ラドチェンコ (Radchenko) V.

(55分休憩)

13:10 / ③ 極東ロシアと北海道を往来するトド・アザラシ類の変動

東京農工大学生物産学系:小林 万里 講師  
北海道水産研究所:服部 薫 研究員  
太平洋地理学研究所(カムチャッカ):Dr.ブルカノフ (Burkanov) V,  
(ウラジオストク):Dr.トゥルーヒン (Trukhin) A.

14:30 / ④ 鳥類:特にオオワシ・オジロワシ調査の結果と今後の動態予測

知床博物館:中川 元 館長  
モスクワ国立大学:Dr. マステロフ (Masterov) V.

15:10 / ⑤ ヒグマ:海と陸との生態系のつながり、極東ロシアと北海道のヒグマ

北海道環境科学研究センター:関野 勉 主任研究員  
太平洋地理学研究所(ウラジオストク):Dr. セリョートキン (Seryadkin) I

(10分休憩)

16:00~17:00(~17:30) / パネルディスカッション

[座長] 横浜国立大学:松田 裕之 教授・北海道大学:大塚司 紀之 名誉教授  
[コメンテーター] 北海道中央水産試験場:佐野 満廣 場長  
酪農学園大学:金子 正美 教授  
知床財団:山中 正実 統括研究員



2008年3月8日 於札幌プリンスホテル  
外務省・環境省主催「オホーツク生態系保全・  
日露協力シンポジウム」事務局編集・発行

# 日露生態系保全協力

## 問題意識

- 温暖化によるオホーツク海の流氷の急激な減少への対処  
(オホーツク海の流氷の面積は、ここ30年間で20%減少。)  
→流氷の減少は、流氷に依存する動物や海洋の物質循環に大きな影響。  
→シベリアの寒気が流氷形成に与える影響等、気候変動の解明が必要。
- アムール川から流出する物質による影響等、海洋環境の把握  
→北太平洋全体に新鮮な酸素やプランクトンの生育に必要な「鉄」を供給。
- 油汚染、鳥インフルエンザ等の国境を越えた問題への対処
- 豊かな生態系をもつ北方四島周辺の生態系の保全

日露協力が  
急務

## 「協力プログラム」の作成により以下の協力を実施

- ◆ 海洋・陸上生態系の共同研究。希少種や絶滅危惧種に関する調査。
- ◆ 生態系に関する情報交換、統一データベースの作成。
- ◆ 油汚染、鳥インフルエンザ等の緊急事態等における迅速な情報交換体制の確立。

- ◆ 流氷の変動やアムール川から流出する物質の調査等、隣接海域の海洋環境の把握。
- ◆ 極東・シベリア等における気候変動と生態系への影響の調査。
- ◆ 日露の関係省庁間の協力、四島交流の枠組みによるものを含む専門家交流の拡大。



## 渡邊綱男自然環境計画課長挨拶より抜粋

1. 知床の生態系保全のためには、オホーツク全体の生態系保全を進めることが必要であり、日露協力が欠かせない。
2. 環境省から外務省の方にご相談をし、外務省、北海道、そして日露の専門家会合にご出席いただいた研究者の皆様のご尽力のお陰で、政府間の協力プログラムがまとまった。
3. 長年にわたっての共同研究、あるいは研究交流という積み重ねがあったからこそ、今回の協力プログラムが出来上がった。
4. その協力プログラムに基づいて、日露の実質的な様々な活動を展開していくための、いわばキックオフというふうに思う。
5. 来年10月に名古屋で開催される、生物多様性条約の第10回締約国会議(COP10)の機会でも、日露の協力プロジェクトについて世界に伝えたい。